

大戸瀬で漁獲されたヒラメ貧血症の診断結果

榊 昌文*¹

東北区水産研究所より日本海側で発生しているヒラメ貧血症に関する情報紹介と同様の症例の有無に関する調査の依頼があり、本県においても日本海及び太平洋におけるヒラメとその他の異体類（カレイ類）について聞き取りと市場調査を実施したところ、日本海側大戸瀬で漁獲されたヒラメに貧血症と思われる個体が発見されたため、増殖センターに検体を搬入し、その症状と魚病及び寄生虫の有無について診断したので詳細を報告する。

なお、異常魚の発見については、水産試験場 松宮総括主任研究員*² の協力を得た。

1. 発見場所

平成9年2月4～5日採取

西津軽郡深浦町北金ヶ沢

大戸瀬漁業協同組合荷捌所

2. 漁具

定置網

3. 診断結果

平成9年2月4～5日にかけて大戸瀬漁協に水揚げされたヒラメを平成9年2月6日に水産増殖センターに持ち込み診断を行った。検査検体数は、異常魚（貧血症と疑われる個体）5尾、正常魚2尾でいずれも鮮魚であった。

なお、外観症状及び解剖所見は正常魚と比較するとともに、症状観察は日本海区水産研究所の観察要項に基づいて行った。

1) 体色、体型

異常魚：T L45.5cm (39～54)、B W0.89kg (0.49～1.33) 肥満度7.66～9.61

正常魚：T L35.4・44.0cm、B W0.38・0.96kg、肥満度9.25・11.27

正常魚と比較して異常魚はやや痩せている個体であった。

- ・体表は異常なし
- ・体色では有眼側は異常は認められなかったが、無眼側は透白色で青味がかった。
- ・体型異常なし

2) 鰓色

- ・白色及び桃色

3) 内臓所見

・肝臓

色：黄色

大きさ：萎縮

硬さ：普通

・脾臓

色：正常

大きさ：正常

硬 さ：正常

・胃：正常魚及び異常魚とも空胃個体であった。

・腎 臓：貧血状態

・腹腔内壁

色：正常

出血班：なし

・心 臓

色：淡紅色

・体側筋

出血班：なし

・眼 球：正常

内臓は全般的に白色で血の気はなかった。

4) 寄生虫観察

異常魚（貧血症状）5尾中4尾からNeoheterobothrium s p.（吸虫類）を確認。寄生部位は鰓及び口腔背部で見られ、口腔では房状に数十個体が寄生していた（写真参照）

ウィルス及び細菌検査

検査は平成9年2月6日に実施した。

ウィルス検査には、魚類株化細胞CHSE-214を使用、細菌検査用培地は普通寒天、トリプトソーヤ寒天、0.25%NaCl加ブレインハートインフュージョン寒天（いずれも0.25%NaCl添加）を使用した。

ウィルス及び細菌検査に用いた部位は、いずれも肝臓（3尾プール）を使用した。

結 果

ウィルス特有のC P E（細胞変性）及び原因菌の発育は確認されなかった。

4. 考 察

異常魚の外観症状及び解剖所見から明らかに貧血症であることが確認された。現在のところ原因は特定されていないが、今回調査した異常魚には高率で寄生虫（Neoheterobothrium s p.）が確認されていることから、これらが貧血症に関与している可能性があり、今後寄生虫と貧血症の因果関係を調査する必要があると思われる。なお、今回のウィルス及び細菌検査では異常は認められなかったが、ウィルス検査に使用した魚類株化細胞が塩分耐性株でなく海産魚類の検査には不適當であった可能性もある。

* 1 現青森県栽培漁業振興協会

* 2 現漁業振興課

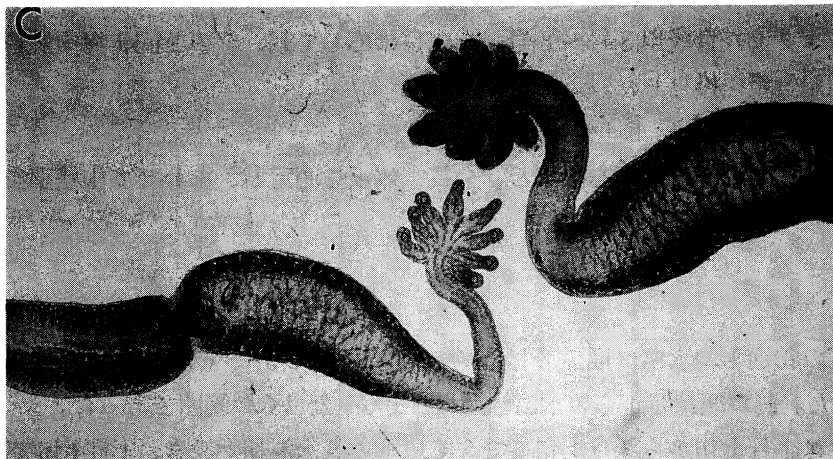
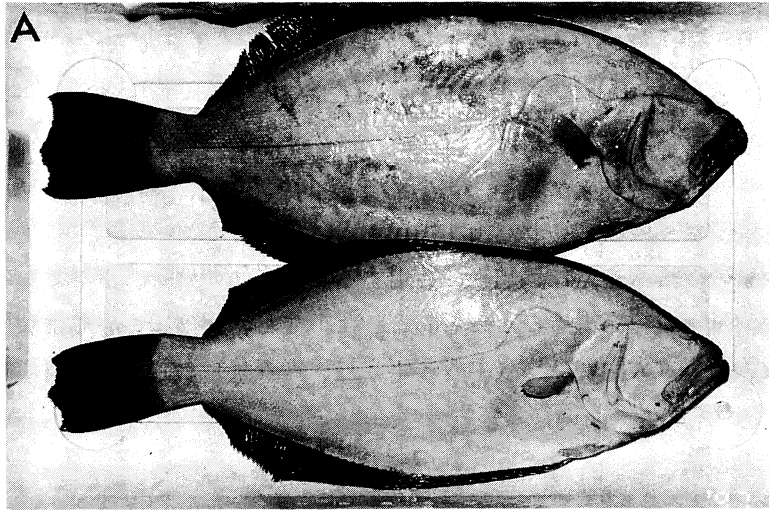


図1 大戸瀬漁協で水揚げされた貧血症ヒラメとそれに寄生していた
Neoheteroboturium sp. : A…貧血症ヒラメ（下）と正常魚（上）
 の無眼側の比較、B…口腔内の虫体の寄生状況（矢印が虫体）、C…
Neoheteroboturium sp.（後端に4対の吸盤様の把握器あり）